

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400564		
法人名	有限会社 サンシャイン		
事業所名	グループホームすずらん(幸せの再来) 1階		
所在地	岐阜県羽島市正木町不破一色305番地		
自己評価作成日	令和 2 年 8 月 1 日	評価結果市町村受理日	令和 3 年 1 月 8 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosyoCd=2170400564-00&Ser_vicCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和2年9月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在は、概ね自立されている利用者様が半数以上みえるので、一人一人その方の状態に合わせた自立支援に力を入れています。職員一人一人が受け持ちの利用者様の「出来る事」「出来ない事」を考え、出来る事を増やす様、働きかけを行っています。今より元気な姿になって頂ける様、現状維持が出来る様、過度な介助は行わず、ご本人のペースに合わせて出来ることは自分で行って頂き、見守りを重視しています。今年は新型コロナウイルス感染症から身を守る為、ボランティア様の受け入れや外出が制限された生活が続いています。その様な環境の中で、ホーム職員と一緒に行う体操や、塗り絵、計算・漢字プリント等を毎日行って頂いています。外食の代わりにテイクアウトを利用し、時々、気分を変えて食事を楽しんで頂ける取り組みを行い、喜ばれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、静かな住宅街に立地し、屋内は採光に優れた造りであり、明るく開放感がある。現在、新型コロナウイルスの影響で、外出や外食等は行っていないが、気候に合わせて、日常的な散歩の日課は継続している。近所にある農園では、畑仕事ができる利用者は、職員と一緒にいき、収穫した野菜や果物は、日々の食事に取り入れたりしている。また、春はお花見に車中ドライブに出かけ、ホーム内で、おやつ作りやお寿司等のテイクアウトを行う等、工夫して楽しみづくりを行っている。ホームとして、利用者のエンパワメントを高める観点から、利用者の日常生活のモニタリングを実施することで、それぞれが持つ潜在的な強みを見出し、主体的な生活を送れるよう支援している。普段、家族に見せない、利用者の自然な様子、例えば食事を自分で食べた姿や目標達成した様子を写真や動画に収め、SNSを活用して、家族にただちに報告する等して、共に喜びや感動を共有している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関ホールやフロアー・休憩室ドア等に掲示し、常に意識出来る様、環境を整えている。ケア方法について検討を行う場合、理念に添っているかについても考え実践している。	職員間で、ホームの理念である「ゆったりと楽しく、自由にありのままに、いっしょに支えあうケア」の共通理解ができています。利用者それぞれの生活スタイルを尊重する観点から、本人の行いたいことを受け止めるとともに、本人の役割を大切に、保護的または一方的な介護にならないよう、ケア実践に努めている。	現在、全職員に大切にしたい思いや考えを聞き取りしているとのことであり、今後、新しい理念を再構築するとともに、ケア実践の中でさらなる理念の具現化に向けた取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年3月ごろより、新型コロナウイルス感染症予防の為、毎月来て頂いていたボランティア様の受け入れを中止。地域の皆さんとのすずらん祭りも中止とした。その様な中でも、散歩へ出かけた時に挨拶を交わすなど小さな関わりを大切にしている。	今年度はコロナ禍の状況にあり、計画していた行事、ボランティアの受け入れや介護相談員の訪問等は感染症対策で中止している。気候や体調に合わせて、近隣への散歩は行っており、近所の人とすれ違う時には挨拶等している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場などに地域の民生委員様にも参加頂き、認知症についても話題に取り上げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。地域民生委員様や羽島市職員様にも毎回参加頂き、ホームの取り組みを説明し、ご意見を頂いている。今年3月は新型コロナウイルス感染症の為に資料配布のみとした。	会議では、現状報告に加え、新型コロナウイルス感染予防対策をテーマにして開催している。また、福祉避難所について話し合いを行い、実際に災害が発生した場合に利用者が受け入れ対象者か、どこに避難するのか確認する等、利用者や職員の不安軽減となるよう、会議を有効活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあれば、市役所の窓口にご相談に出向いている。市担当者から連絡がある場合もある。連絡を取り合える関係にある。	市担当者は運営推進会議に参加しており、アドバイスをもらったりしている。また、介護保険関連法令やホーム運営、利用者に関する連絡事項、研修案内等、多岐に渡り、メールや電話で日常的な連絡を取り合う関係となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常生活の中で利用者様に身体拘束は行っていない。施錠を行わないケアを実践する為、個々の状態を把握し、ケア方法について話合っている。ご家族にも説明しホームの考えを理解頂く様努力している。	身体拘束をしないケアを実践し、家族にも、身体拘束の原則禁止や例外3原則等について説明している。いつ、誰が、どのタイミングで見守りが必要なのか等について職員間で話し合う等、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について職員会議で取り上げたり事業所内研修にて理解を深めている。業務中の言葉遣いに注意し、スピーチロックにならない様、検討を繰り返している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者様を通し、その必要性等について考え、支援させて頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居の段階になられた時点で、再度ご家族と面会させて頂き、現在の家族の状況等聞き取りを行い不安に思ってみえることを確認させて頂いている。すずらんに任せて頂ける気持ちを持って頂けるよう、契約書等も含め説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部の相談機関のご紹介を契約時に行っている。日々のケアの中で、ご要望があった場合、前向きに検討している。ご家族宛のアンケートを利用し聞き取りを行っている。今年の3月までは介護相談員派遣事業の利用を行っていた。	例年、玄関先に意見箱を設置し、利用者・家族からの意見収集に努めるとともに、面会時等に声かけに心がけ、意見聴取に努めている。また、独自のアンケートを実施し、意向を把握している。今年度は、コロナ禍の状況にあり、来訪時の意見聴取は期待できない状況であるが、意見をいただければホーム運営に活かしていくつもりである。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア方法や運営に関し、フロアごとに相談し意見を聞き取り検討材料にしている。契約更新時に管理者・施設長と面談を行っている。今年4月に職員個別に困りごとや希望の聞き取りを改めて行った。	管理者は、日頃から現場に身を置き、日常的なケアの場面で、いつでも職員の意見を聞くことができるので、何かあれば、その場で相談や意見をすぐに出せる環境にある。また、個別面談や会議を通して意見を聞く機会を設け、意見収集に努め、ホームの運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務条件の希望や将来に向けた希望の聞き取りなどを行っている。各フロアリーダーより勤務状況、介護技術、ホーム理念の深まり等について報告を受け把握に努めている。スムーズに研修受講できる様、事業所として費用や勤務について支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	有資格者からの指導を受けることが出来る様取り組んでいる。事業所外の研修を受ける機会を作り勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は新型コロナウイルス感染症予防の為、他事業所等との交流がなかなか持てていない。この様な状況で出来る事を検討する必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用契約前に、ご家族やご本人から、おママでの生活習慣や大切にしていることを出来る限り細かく聞き取り、入居後、ケアを受けて頂くことに戸惑いの無い様、関わりを持っている。入居後はご家族との面会や外出の機会が継続出来るよう、説明をさせて頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に、ご家族の今までの関わりやそれぞれの思い、入居後の生活の希望を聞き取っている。私達すずらんの職員で期待に応えることが出来る内容を説明。入居後のご様子や関わりの様子を説明させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の生活の中で心配されている、認知症状、身体の機能、精神状態を聞き取っている。その上で、ご本人やご家族が心配されている事が解決できる方法を一緒に考え、場合によっては医療機関や他サービスに相談をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームでの生活の主体は利用者であることを忘れないような関わりが持てる様に努めている。意思決定支援について学び実践に繋げている。生き活きと力が発揮出来るような支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族一人一人がどの様な関係にあって、どの様な思いを持ってみえるのか知る努力をしている。ご本人の支援にはご家族の支援が必要不可欠なものであることを説明し関係作りを行っている。理解が深まる様、繰り返し行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に、利用者様の思いを伝えることを行っている。今まで通って見えた美容院を利用して頂いたり、月命日には自宅へ戻りお参り頂いている方がみえる。	今年度はコロナ禍で馴染みの場所への外出や馴染みの人の来訪が困難な状況にある。その中でも、利用者ご家族との電話交流や周辺地域の感染状況を確認し、馴染みの美容院等への外出をできる範囲で行っている。また、家族とはSNSを活用し、写真・動画で近況を伝える等、関係継続に向けた支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや家事作業等を通して、利用者様同士が楽しく関わりが持てる様、考え支援を行っている。日常の中で、テーブルを囲み、皆でおしゃべり出来る雰囲気にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の受け入れ先の関係機関に情報提供等の協力を行っている。お看取りで亡くなった場合は、告別式に伺い一緒にお別れをさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、利用者様とよく会話し思いを聞き取り支援に繋げている。その方に何が必要かを検討している。起床時間や朝食の時間、洗濯物の取り扱い、入浴などについても心身の状態に合わせ、個別の対応を行っている。	特に入浴時や夕食後、就寝前等、利用者一人ひとりとゆっくり関われる時に思いや意向を把握している。上手く思いを伝えられない利用者は、本人の視点に立って考え、表情やしぐさから、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族、関係機関の担当者から暮らしを聞き取り、センター方式等を利用し介護職員に情報提供を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、健康状態の変化が大きい方もみえる為、細かな様子の申し送りをし、その日の対応について決定し実践し経過を観察し、翌日につなげている。主治医やリハビリ担当者からも情報を得ている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の状態の変化に気を付けるように、ご本人の普段の言葉や行動に感心を持ち聞いている。それらの情報を元に、ご家族や主治医と意見交換し、介護計画を作成している。	介護計画は、利用者・家族の意向を踏まえ、主治医や看護師に意見を聞いて、フロア会議を通じて、職員間で話し合い、チームで介護計画を作成している。3か月に1度モニタリングを行い、同様の手順で、計画書を見直している。利用者の状態変化がある場合等には随時、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの内容に添った介護記録に様式を変更し、知識や経験年数の差があっても、より良いケアに繋げることが出来るよう、工夫されている。介護記録記入について利用者様にも関わって頂き、主体的に生活できる様、取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の外出や、連携医療機関以外の病院受診を希望される場合など、家族関係、家族の生活状況に応じ、外出時の同行や送迎などホームで対応させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年3月より新型コロナウイルス感染予防の為、地域へ出ることも、ホームへ来て頂くことも控えている。外部との接触のない方法での関わりの検討が必要である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望される医療機関の確認を行い、主治医と連携を取らせて頂いている。必要があれば、ご家族も同行頂き、直接主治医から話を聞いて頂いている。専門医受診が必要な場合は必ずご家族に相談させて頂いている。お看取りの場合も主治医からの十分な支援があり安心頂いている。	利用者・家族は入居前の主治医か協力医療機関のどちらでも選択することができる。協力医とは、定期的な往診や緊急時の対応等、密な連携ができています。また、近隣の歯科医院の往診もある。他科受診等は家族に依頼しているが、困難な場合は、職員も対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の心身の状態の変化に気付いた場合は、些細な事でも必ず、個別の看護・連絡欄に記載し申し送りを行っている。早期に適切な受診や看護を受けられる体制になっている。訪問リハビリについても同様である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症の方が入院された場合のリスクを常に考え、家族や主治医、病院相談員と情報交換を行っている。入院中は週に1.2回程面会に伺い、状態の変化を確認し、何かあれば、病院関係者や家族と相談させて頂いている。急な退院にも対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針について「看取りの指針」を配布し説明を行っている。ご本人、家族の状況に配慮しつつ看取りを行っていくうえで、どの様に関係者が協力体制をとっていくか、その都度相談させて頂いている。ご家族の意向に添うよう努力している。	入居時に利用者・家族に終末期ケアの方針について説明し、意向を確認している。終末期については人生の重大な場面であるので、家族の思いの揺らぎや変化を尊重しつつ寄り添い、最期までその人らしい人生を全うできるよう、職員みな同じ思いで看取りケアにあたっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成している。急変時にはバイタルチェックを必ず行い、看護師、施設長に報告を入れる事を普段から徹底している。利用者様の個別の病状について把握出来る様、個別のファイルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行い、避難方法や搬送方法を学んでいる。各フロアーには停電時に備え、懐中電灯を用意している。水害等の災害に対する訓練を予定している。	例年は、消防署立会いの下、防災訓練を実施し、指導・助言を受けているが、今年度はコロナ禍の影響で、消防署の立ち合いができなかったとのことである。各種の災害に備えて、マニュアルを作成するとともに、ホーム等に食糧や飲料水等を備蓄している。	土日や夜間等、管理者が不在の場合や連絡が取れない場合の様々な災害時に対しての具体的な対応手順を職員間で話し合う等、職員への周知徹底に向けた取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の心を傷つけてしまわないような声掛けの仕方について、繰り返し話し合いを持ち実践に繋げている。利用者体験の研修を行い、介護される側の気持ちを深く理解できるように取り組んでいる。	利用者体験の研修を行うことで、利用者の尊厳やそれぞれの生活スタイルを尊重し、一方的な介護にならないよう、利用者の立場に立ったケア実践に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の言葉や手振り、身振り、表情に何の意味があるのかや思いを常に考え関わっている。何か行う時には必ず利用者様に伺うようにしている。発言しやすい雰囲気作りが大切だと感じ、笑顔を心掛け、実践に繋げる努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかなホームでの日課は決まっているが、ご本人の希望や体調により個々に過ごし方を変えています。自発的に行って頂いている事を大切に継続出来る様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は2ヶ月に1回利用頂いている。衣類が汚れた場合は早めに着替えて頂ける様、支援している。口元や手の汚れにも注意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューや下ごしらえ、調理などケアプランに入れ、手伝って頂いている。食器洗いを担当して下さっている方や食事前後のテーブル拭きの担当の方がある。	ホームで職員が利用者の参加のもと、調理を行っている。野菜の皮むきやお米を研ぐ、みそ汁を作る、お茶を入れる等、利用者の状況に応じて役割分担し、できることを積極的に行えるよう支援している。また、農園で野菜を育て、収穫した食材を献立に取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や心身の状態を全職員が把握し、必要なケアに繋げている。飲み物の好みも伺っている。主治医から制限のある方もある為、繰り返し検討を行っている。決まった時間以外での食事提供になる方もあり柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを行っている。舌ブラシや洗口剤を個別で使用頂いている。必要に応じ歯科受診や往診の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員の都合で紙オムツや紙パンツの使用を行わない様に検討している。ご本人のトイレの訴えを逃さないような関わりを行っている。入居後布パンツに変更になった方もある。	利用者の排泄パターンを把握し、表情やしぐさを見逃さず、トイレ誘導することで、紙おむつ等から布パンツに変更する改善につながったとのことである。トイレ誘導は利用者の羞恥心に配慮しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬ばかりに頼るのではなく、乳酸飲料や牛乳の飲用、運動を取り入れ、予防に取り組んでいる。腹部の温湿布やマッサージなども取り入れ、調子の良い排便のパターンを作り出している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日やおむねの時間帯は決まっているが、その日の体調や気分が入浴日や時間を変更し、気分良く入って頂ける様、支援を行っている。毎日、声掛けをさせて頂いている方もある。皮膚の状態によっては毎日入浴頂く方もある。冬場は入浴剤を使用し気分を変えている。	利用者の希望に合わせて、週2～3回、入浴を行っている。入浴を拒まれる場合には無理強いないで、時間や職員を変更する等、臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や、夜の入床時間など個々に対応させて頂いている。不安な時は、話を傾聴し落ち着いて眠って頂ける様な関りをさせて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	おむね把握しており、症状の変化に注意している。薬の変更について随時、看護師から申し送りがあり、利用者様に変化が見られれば、看護師に申し送っている。ご家族の心配事なども伺い主治医に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方が出来る事、好きな事を見つけ、散歩、レクリエーション、月の行事、家事作業など楽しみの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年の3月までは、気分転換の為の散歩の同行や、皆さん一緒に食事会など計画し実施していた。子どもさんへ、近くへの喫茶店への外出などを勧めていた。現在は新型コロナウイルス感染の広がりをみながら、ご家族と相談させて頂いている。	コロナ禍の状況にあり、現在、外出や外食は控えているが、庭の草取りや農園での畑仕事、近隣の散歩や車中ドライブ等をできる範囲で工夫し、行っている。また、外食の代わりに、毎月1回程度、寿司やお弁当等をテイクアウトして食事をする等、気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を持ちたいと希望される方があり、安心感を感じて頂くために、財布に入れて持って頂いている方がいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては、利用者様やご家族の希望があれば、ホームの電話を利用して頂いている。手紙などもお渡ししている。3月以降は、携帯電話のライン機能を利用し、画像の送信やビデオ通話にてコミュニケーションを取って頂いている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内を清潔に保ち、不快感を感じ無い様に配慮している。玄関やフロアー、洗面所に季節の花を飾るなどし、ゆったりと落ち着いた雰囲気でも過ごして頂ける様、工夫している。作品作りなども利用者様に楽しみながら行って頂けるよう工夫している。	玄関や廊下には、利用者の描いた季節感ある絵や趣味活動で作った作品、利用者の行事の様子が分かる写真等が掲示されている。また、リビングには利用者に分かりやすいようにカレンダーや嚙下体操の図、歌の歌詞等が掲示してあり、明るく清潔感ある落ち着いた共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキ、玄関に配置された椅子に座って頂ける様、個別に過ごして頂く場所があり、利用者様自身の能力で上手に使い分けてみえる。利用者様によっては事務所に話しに来られる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身の作品や写真で室内を飾ったり、好きな歌の歌詞の書かれた用紙を貼り、一緒に歌を唄ったり出来る工夫がされている。清潔感や安全面にも配慮している。	備え付けのカウンターがあり、利用者それぞれの生活スタイルに応じて、テレビ、仏壇、作品、写真等、好きなものが置けるスペースがある。また、利用者の歩行状態や希望に合わせて、畳に敷き布団で寝てもらえるよう配慮している。利用者一人ひとりの身体状況を考慮し、安全安心を担保しつつ、居心地良さを感じさせる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで手すりの設置もされている。ウッドデッキを通り庭へ洗濯物を干しに行ったり、取り込んだりして頂くことが出来る様に工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400564		
法人名	有限会社 サンシャイン		
事業所名	グループホームすずらん(幸せの再来) 2階		
所在地	岐阜県羽島市正木町不破一色305番地		
自己評価作成日	令和 2 年 8 月 1 日	評価結果市町村受理日	令和 3 年 1 月 8 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様、一人一人に寄り添うお世話を行うことが出来る様、努力しています。朝の起床時から「起きましょうか？」の声掛けに「まだ寝たい」と返答があれば、一旦離床の介助を見合わせ、再度タイミングを計ります。再度声掛けし、気分が変わられたのをキャッチし、離床介助に繋げています。強引で一方向的な介護にならないよう、その方の変化に敏感に反応し行動しています。食事やトイレへの誘導も同じく、利用者様をせかすことなく、「嫌な事された」という気持ちが残らない工夫を考えています。職員同士はお互いの弱点を注意し合い、学習し合う雰囲気があります。勤務中に気軽に声掛けし合い、一人で頑張りすぎず、助け合う関係作りを心掛けています。そういった職員同士の関係性がフロアの雰囲気になるということを自覚しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosyoCd=2170400564-00&SerVrCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和2年9月11日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関ホールやフロアー、休憩所ドアに掲示し、常に意識出来る環境を整えている。ケア方法検討する場合、理念に添っているかについても考慮している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年3月から新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からボランティア様の受け入れを中止。地域の方とのすずらんまつりも中止としている。その様な中でも散歩に出かけた際に挨拶を交わすなど小さな関わりを大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場などに地域の民生委員様にも参加頂き、認知症状についても話題に取り上げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。地域民生委員様や羽島市職員様にも毎回参加頂き、ホームの取り組みを説明し、ご意見を頂いている。今年3月は新型コロナウイルス感染症の為に資料配布のみとした。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあれば、市役所の窓口相談に出向いている。市担当者から連絡がある場合もある。連絡が取りあえる関係にある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠・拘束を行わないケアについて研修を行い、意識が深まり実践出来ている。施錠を行わないケアを実践する為、個々の状態を把握し、ケア方法を工夫している。解放的な雰囲気与生活頂ける様、散歩や外気浴を計画し実践に繋げている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について職員会議や事業所内研修で取り上げ理解を深めている。介護職員、看護師とで利用者様の小さなアザ、傷についても施設長に報告し検討を行っている。言葉についても注意し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者様を通し、その必要性等について考え、支援させて頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居の段階になられた時点で、再度ご家族と面会させて頂き、現在の家族の状況等聞き取りを行い不安に思ってみえることを確認させて頂いている。すずらんに任せて頂ける気持ちを持って頂けるよう、契約書等も含め説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部の相談機関のご紹介を契約時に行っている。日々のケアの中で、ご要望があった場合、前向きに検討している。今年の3月までは、介護相談員の協力を得、利用者様やご家族からの聞き取りを行っていた。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア方法や運営に関し、フロアごとに相談し意見を聞き取り検討材料にしている。契約更新時に管理者・施設長と面談を行っている。今年4月に職員個別に困りごとや希望の聞き取りを改めて行った。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務条件の希望や将来に向けた希望の聞き取りなどを行っている。各フロアリーダーより勤務状況、介護技術、ホーム理念の理解の深まり等について報告を受け把握に努めている。スムーズに研修受講できる様、事業所として費用や勤務について支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	有資格者からの指導を受けることが出来る様取り組んでいる。事業所外の研修を受ける機会を作り勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は新型コロナウイルス感染症予防の為、他事業所等との交流がなかなか持てていない。この様な状況で出来る事を検討する必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用契約前に、ご家族やご本人から、今までの生活習慣や大切にしていることを出来る限り細かく聞き取り、入居後、ケアを受けて頂くことに戸惑いの無い様、関わりを持っている。入居後はご家族との面会や外出の機会が継続出来るよう、説明をさせて頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に、ご家族の今までの関わりやそれぞれの思い、入居後の生活の希望を聞き取っている。私達すずらんの職員で期待に応えることが出来る内容を説明。入居後のご様子や関わりの様子を説明させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の生活の中で心配されている、認知症状、身体の機能、精神状態を聞き取っている。その上で、ご本人やご家族が心配されている事が解決できる方法を一緒に考え、場合によっては医療機関や他サービスに相談をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームでの生活の主体は利用者であることを忘れないような関わりが持てる様に努めている。一緒に生活を作り上げる努力を行っている。生き活きと力が発揮出来るような支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族一人一人がどの様な関係にあって、どの様な思いを持ってみえるのか知る努力をしている。ご本人の支援にはご家族からの支援が必要不可欠なものであることを説明し関係作りを行っている。理解が深まる様、繰り返し行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居年数が長くなってこられ、身心の機能低下がみられる方が多い。自宅へ戻られることは難しくなられている為、ホーム内での面会の機会を増やす工夫をしている。ご様子を連絡し、面会時に確認頂く様にお話しさせて頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物を干したりたたんだりする家事作業や皆さん一緒に行うレクリエーションを通して、協力し合い、一緒に暮らす関係作りに向けた支援を行っている。寝てばかりの利用者様に対しても孤立しない様、職員が側について参加頂き、仲間意識を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の受け入れ先の関係機関に情報提供等の協力を行っている。お看取りで亡くなった場合は、告別式に伺い一緒にお別れをさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、利用者様とよく会話し思いを聞き取り支援に繋げている。その方が何を望まれているか検討している。訴えられない方については、その表情や行動を観察しご家族と相談させて頂き、思いを汲み取る様努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族、関係機関の担当者から暮らしを聞き取り、センター方式等を利用し介護職員に情報提供を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、個々に心身の状態を観察し、施設長、看護師を交え、申し送りを行い、フロア全体での把握に努めている。その日、その時に必要があれば臨機応変にケア方法について柔軟に変更している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の状態の変化に気が付けるように、本人の普段の言葉や行動に感心を持ち関わっている。それらの情報を元に、ご家族や主治医・リハビリ担当者と意見交換し、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの内容に添った介護記録に様式を変更し、より良いケアに繋げることが出来るよう、検討を行っている。利用者様が参加できる形がないか検討している。申し送り帳を活用し漏れが無い様に工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の外出や、連携医療機関以外の病院受診を希望される場合など、家族関係、家族の生活状況に応じ、外出時の同行や送迎などホームで対応させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年3月より新型コロナウイルス感染予防の為、地域へ出ることも、ホームへ来て頂くことも控えている。外部との接触のない方法での関わり方の検討が必要である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望される医療機関の確認を行い、主治医と連携を取らせて頂いている。必要があれば、ご家族も同行頂き、直接主治医から話を聞いて頂いている。専門医受診が必要な場合は必ずご家族に相談させて頂いている。お看取りの場合も、主治医からの十分な支援を得られている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の心身の状態の変化に気付いた場合は、些細な事でも必ず、個別の看護・連絡欄に記載し申し送りを行っている。早期に適切な受診や看護を受けられる体制になっている。訪問リハビリについても同様である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症の方が入院された場合のリスクを常に考え、家族や主治医、病院相談員と情報交換を行っている。入院中、面会に伺い、状態の変化を確認し、何かあれば、病院関係者や家族と相談させて頂いている。急な退院にも対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針について「看取りの指針」に基づき、ご家族に説明させて頂いている。その後も利用者様の状態の変化の都度、主治医からの説明を聞いて頂いたり、方向性の再確認を行ったりしている。安心した最期を迎えて頂くにあたり、個別のご要望に出来る限り応える体制にある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成している。急変時にはバイタルサインチェックを必ず行い、看護師、施設長に報告を入れる事を普段から徹底している。利用者様の個別の病状について把握出来る様、個別のファイルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行い、避難方法や搬送方法を学んでいる。各フロアには停電時に備え、懐中電灯を用意している。水害等の災害に対する訓練を予定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の心を傷つけてしまわないような声掛けの仕方について、繰り返し話し合いを持ち実践に繋げている。利用者体験の研修を行い、介護される側の気持ちを深く理解できる様に取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意志が言葉となって出るまでに時間がかかる場合や、遠慮から言われない場合もあることを理解している。意思決定支援について学び、思いを伝えやすい雰囲気作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかなホームでの日課は決まっているが、ご本人の希望や体調により個々に過ごし方を変えています。自発的に行って頂いている事を大切に継続出来る様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は2ヶ月に1回利用頂いている。衣類が汚れた場合は早めに着替えて頂ける様、支援している。外出時にはお気に入りの洋服を着て出かけることが出来る様、何度も相談にのっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや準備、片付け等が出来る方と出来ない方の個人差が大きくなっている。数人ではあるが、出来ることを一緒に行って頂く様支援し、食事が楽しみなものになる様、工夫している。米とぎや食器洗いなど、キッチンに立って頂く場面もある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や心身の状態を全職員が把握し、必要なケアに繋げている。飲み物の好みも伺っている。主治医から制限のある方もある為、繰り返し検討を行っている。個々に摂取出来る状態に違いがある為、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。舌ブラシや洗口剤の併用なども行っている。介助が必要な方が多い為、職員が側について見守りや手伝いをしている。歯科医からのアドバイスを受け、口腔内の清潔について実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意や便意の無い方でも、出来る限り定期的にトイレ誘導を行ったり、本人の発する言葉に添って介助に入っている。紙パンツやおむつの使用に関しても状態に合わせ、本人様やご家族と相談させて頂いている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促す様、起床時に牛乳を飲んで頂いている。毎日の運動にも心がけた生活になるように工夫している。寝たきりにならない様な日課を考え実践している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日やおむねの時間帯は決まっているが、その日の体調や皮膚の状態に応じ、入浴回数を増やし対応している。便失禁される方も多く、直ちにシャワー浴行い清潔を保つことが出来る様、臨機応変に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や、夜の入床時間など個々に対応させて頂いている。不安な時は、話を傾聴し安心して眠って頂ける様な関りをさせて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	おむね把握しており、症状の変化や内服薬の変更注意している。薬の変更について随時、看護師から申し送りがあり、バイタルサイン等、利用者様に変化が見られれば、看護師に申し送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、レクリエーション、月の行事、家事作業など楽しみ支援を行っている。何がその方の喜び・楽しみにつながるのかを検討している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年々重度化してきており、現在寝たきりに近い方もみえる。加えて、今年は新型コロナウイルス感染症への警戒もあり、近所への散歩程度の外出に留まっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様にお金を所持して頂くかは、ご本人と家族と相談し決めている。現在はご自身でお金を持たれている方はみえない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、利用者様自身で電話をかけたいと言われる方はみえない。記入頂いた日記を、ご家族に見て頂き、その時々のおいを感じ取って頂くことを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内を清潔に保ち、不快感を感じ無い様に配慮している。季節に合わせた壁の飾りを作成している。慣れた場所で寝起き頂ける様、工夫を行っている。季節に応じ、室温の管理を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで他利用者様と一緒に過ごして頂く場面をつくったり、ソファを活用しゆったりと過ごして頂く工夫を行っている。居室で一人で過ごすことを好まれる方もある為、その方の希望に添った生活になる様、支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今まで使ってみえたダンスや飾り物があれば持ち込んで頂く様に勧めている。安全面も考慮し工夫している。写真などを貼り、落ちつく雰囲気を作っている。お仏壇やご主人の遺品を持ち込んで頂いている方もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで手すりの設置もされており、安全にかつ自立した生活を送って頂ける様、工夫されている。		